

# **医療的ケア児等実態調査（事業所調査）報告書**

令和8年1月

鹿児島県保健福祉部障害福祉課



# **医療的ケア児等実態調査（事業所調査）**

## **1 調査の目的**

県内の障害福祉サービス事業所等が医療的ケア児等に提供しているサービスの実態や支援における課題等を把握し、今後の施策の参考とすることを目的とする。

## **2 調査の概要**

- (1) 調査地域 県内全域
- (2) 調査対象事業所  
①訪問系：訪問看護ステーション、  
居宅介護(ホームヘルプ：重度訪問介護を含む)  
  
②日中活動系：医療型短期入所、福祉型短期入所、  
児童発達支援【未就学児】、  
放課後等デイサービス【就学児】、  
生活介護(デイサービス)【18歳以上】  
  
③居住系：共同生活援助(グループホーム)【18歳以上】
- (3) 調査期間 令和7年11月～12月（調査時点 令和7年9月1日）
- (4) 調査方法 電子申請システム

※事業所調査は、今回が初めての実施

## **3 調査主体**

調査主体：鹿児島県

## 目 次

### I 基本情報

1 調査対象数及び回答数	1
--------------	---

### II 調査結果の詳細

#### 1 受入状況

(1) 受入状況	2
(2) 医療的ケアの種類	4

#### 2 受入体制

(1) 医療的ケアに当たる職員	5
(2) 送迎支援の実施状況	5
(3) 入浴支援の実施状況	6
(4) サービス提供時間の状況（生活介護）	7

#### 3 受入課題

(1) 受入における課題	8
--------------	---

#### 4 鹿児島県医療的ケア児等支援センター

(1) 鹿児島県医療的ケア児等支援センター認知度	11
--------------------------	----

#### 5 その他のご意見

# 医療的ケア児等実態調査（事業所調査）

## I 基本情報

### 1 調査対象数及び回答数

調査対象2,383事業所のうち928事業所から回答があり、回答率は39%であった。

特に、「医療型短期入所（100%）」と「訪問看護ステーション（71%）」の回答率が高かった。

事業所の種類	調査対象数	回答数	回答率
訪問看護ステーション	251	178	71%
居宅介護（ホームヘルプ：重度訪問介護を含む）	269	82	30%
医療型短期入所（ショートステイ）	12	12	100%
福祉型短期入所（ショートステイ）	193	40	21%
児童発達支援【未就学児】	497	215	43%
放課後等デイサービス【就学児】	632	232	37%
生活介護（デイサービス）【18歳以上】	255	82	32%
共同生活援助（グループホーム）【18歳以上】	274	87	32%
合計	2,383	928	39%

## II 調査結果の詳細

### 1 受入状況

#### (1) 受入状況

「現在受け入れている」が20%, 「現在は受け入れていないが, 受入意向あり」が計17%, 「受入困難」が63%であった。

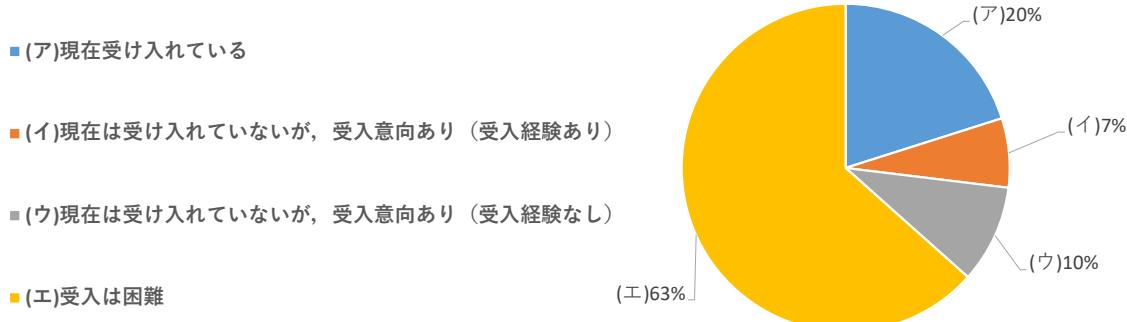
「現在受け入れている」, 「現在は受け入れていないが, 受入意向あり」の割合は, サービス分類別では「訪問系」が計39%.

「日中活動系」が計25%, 「居住系」が計9%であった。

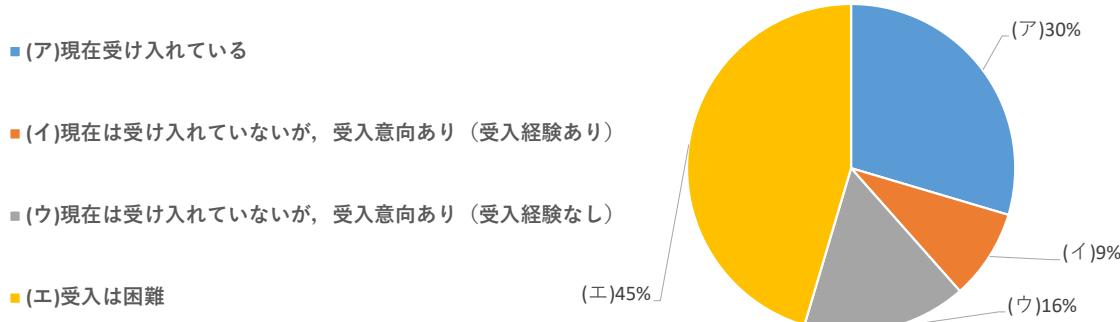
#### ・事業所数（状況別）

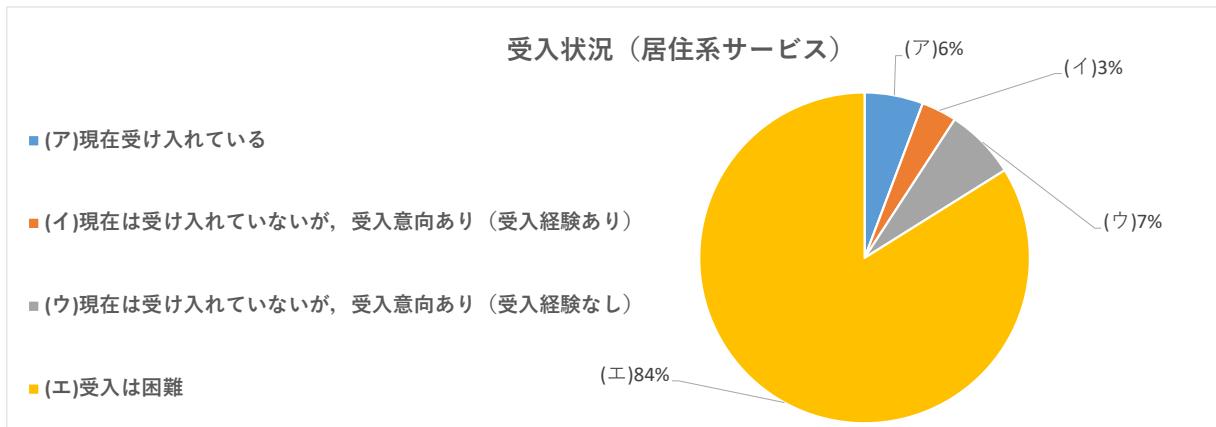
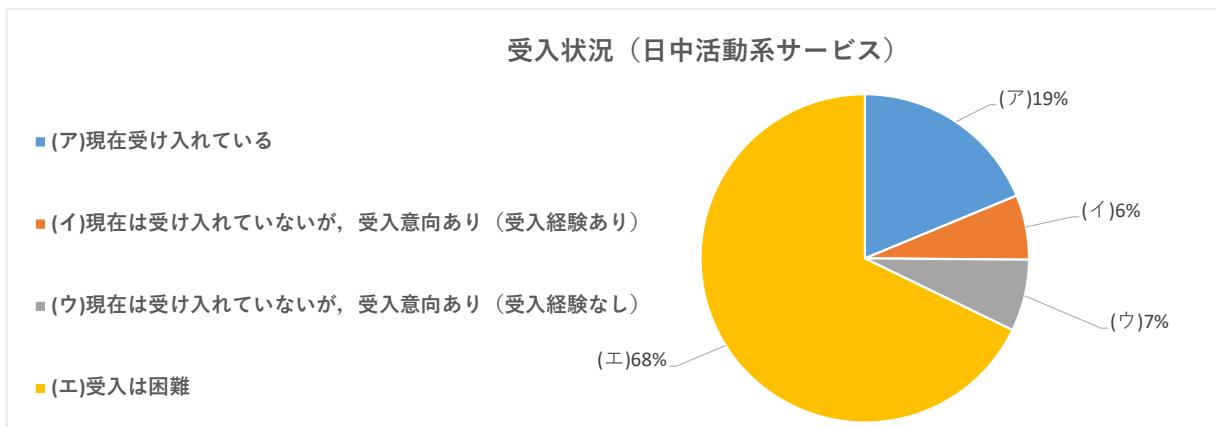
	現在受け入れている	現在は受け入れていないが、受入意向あり（受入経験あり）	現在は受け入れていないが、受入意向あり（受入経験なし）	受入は困難	合計
①訪問看護ステーション	51 (29%)	19 (11%)	35 (20%)	73 (41%)	178
②居宅介護（ホームヘルプ：重度訪問介護を含む）	26 (32%)	4 (5%)	7 (9%)	45 (55%)	82
③医療型短期入所（ショートステイ）	12 (100%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	12
④福祉型短期入所（ショートステイ）	7 (18%)	3 (8%)	2 (5%)	28 (70%)	40
⑤児童発達支援【未就学児】	30 (14%)	25 (12%)	18 (8%)	142 (66%)	215
⑥放課後等デイサービス【就学児】	31 (13%)	8 (3%)	16 (7%)	177 (76%)	232
⑦生活介護（デイサービス）【18歳以上】	29 (35%)	1 (1%)	5 (6%)	47 (57%)	82
⑧共同生活援助（グループホーム）【18歳以上】	5 (6%)	3 (3%)	6 (7%)	73 (84%)	87
合計	191 (20%)	63 (7%)	89 (10%)	585 (63%)	928
訪問系サービス（①～②）	77 (30%)	23 (9%)	42 (16%)	118 (45%)	260
日中活動系サービス（③～⑦）	109 (19%)	37 (6%)	41 (7%)	394 (68%)	581
居住系サービス（⑧）	5 (6%)	3 (3%)	6 (7%)	73 (84%)	87

受入状況（合計）



受入状況（訪問系サービス）





・事業所数（圏域別：受入中及び受入意向あり）

	鹿児島	南薩	北薩	姶良・伊佐	大隅	熊毛	大島	合計
①訪問看護ステーション	44	7	14	14	17	1	8	105
②居宅介護（ホームヘルプ：重度訪問介護を含む）	18	4	4	3	4	0	4	37
③医療型短期入所（ショートステイ）	9	0	1	2	0	0	0	12
④福祉型短期入所（ショートステイ）	7	3	0	2	0	0	0	12
⑤児童発達支援【未就学児】	38	0	3	16	8	2	6	73
⑥放課後等デイサービス【就学児】	25	0	2	15	7	0	6	55
⑦生活介護（デイサービス）【18歳以上】	7	4	3	8	8	2	3	35
⑧共同生活援助（グループホーム）【18歳以上】	5	0	2	5	1	1	0	14
合計	153	18	29	65	45	6	27	343
訪問系サービス（①～②）	62	11	18	17	21	1	12	142
日中活動系サービス（③～⑦）	86	7	9	43	23	4	15	187
居住系サービス（⑧）	5	0	2	5	1	1	0	14

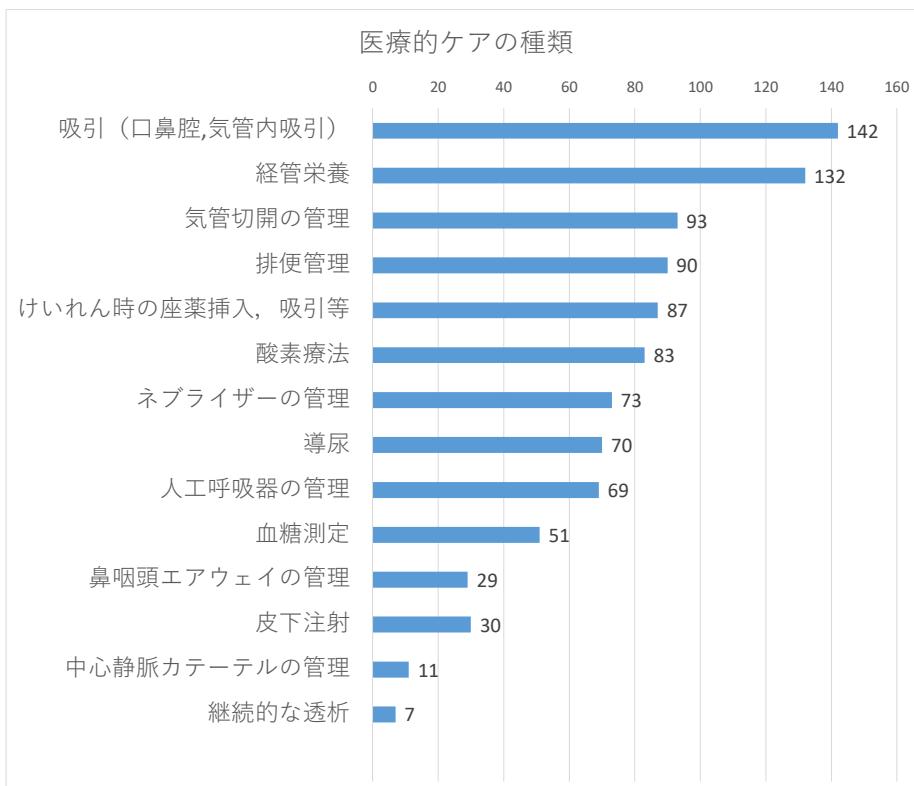
## (2) 医療的ケアの種類

「現在受け入れている」，「現在は受け入れていないが，受入意向あり（受入経験あり）」の事業所で実施している（していた）医療的ケアの種類としては，「吸引（口鼻腔，気管内吸引）（56%）」と「経管栄養（52%）」が特に多かった。

※「現在受け入れている」，「現在は受け入れていないが，受入意向あり（受入経験あり）」と回答のあった事業所のみ対象

	回答	割合
人工呼吸器の管理	69	27%
気管切開の管理	93	37%
鼻咽頭エアウェイの管理	29	11%
酸素療法	83	33%
吸引（口鼻腔，気管内吸引）	142	56%
ネブライザーの管理	73	29%
経管栄養	132	52%
中心静脈カテーテルの管理	11	4%
皮下注射	30	12%
血糖測定	51	20%
継続的な透析	7	3%
導尿	70	28%
排便管理	90	35%
けいれん時の座薬挿入，吸引等	87	34%

割合は、「現在受け入れている」，「現在は受け入れていないが，受入意向あり（受入経験あり）」と回答のあった254事業所に占める割合



## 2 受入体制

### (1) 医療的ケアに当たる職員

医療的ケアに当たる職員は「看護職員」が最も多い、85%であった。

※「現在受け入れている」、「現在は受け入れていないが、受入意向あり」と回答のあった事業所のみ対象

	回答	割合
医師	18	5%
看護職員	290	85%
所定の研修を受けた介護職員 （たんの吸引、経管栄養のみ）	72	21%

割合は、「現在受け入れている」、「現在は受け入れていないが、受入意向あり」と回答のあった343事業所に占める割合

### (2) 送迎支援の実施状況

「実施している」、「実施予定」が計77%であった。

「生活介護（計91%）」が最も多く、次いで、「放課後等デイサービス（計82%）」、「児童発達支援（計72%）」が多かった。

#### ・事業所数（状況別）

※「現在受け入れている」、「現在は受け入れていないが、受入意向あり」と回答のあった日中活動系サービス事業所のみ対象

	実施している	現在は実施していないが、希望者がいれば実施予定	実施していない	合計
医療型短期入所 （ショートステイ）	6 (50%)	1 (8%)	5 (42%)	12
福祉型短期入所 （ショートステイ）	6 (50%)	2 (17%)	4 (33%)	12
児童発達支援 【未就学児】	31 (42%)	22 (30%)	20 (27%)	73
放課後等デイサービス 【就学児】	30 (55%)	15 (27%)	10 (18%)	55
生活介護（デイサービス） 【18歳以上】	25 (71%)	7 (20%)	3 (9%)	35
合計	98 (52%)	47 (25%)	42 (22%)	187

#### 送迎支援の実施状況

（受入中及び受入意向ありの日中活動系サービス事業所）

■(ア)実施している

(ウ)22%

■(イ)現在は実施していないが、希望者がいれば実施予定

(イ)25%

■(ウ)実施していない



#### ・事業所数（地域別：実施中及び実施予定）

	鹿児島	南薩	北薩	姶良・伊佐	大隅	熊毛	大島	合計
医療型短期入所 （ショートステイ）	6	0	0	1	0	0	0	7
福祉型短期入所 （ショートステイ）	3	3	0	2	0	0	0	8
児童発達支援 【未就学児】	23	0	2	14	7	2	5	53
放課後等デイサービス 【就学児】	19	0	1	13	7	0	5	45
生活介護（デイサービス） 【18歳以上】	6	4	3	8	8	1	2	32
合計	57	7	6	38	22	3	12	145

### (3) 入浴支援の実施状況

「実施している」、「実施予定」が計41%であった。

「短期入所（計100%）」が最も多い、次いで、「生活介護（計80%）」が多かった。

#### ・事業所数（状況別）

※「現在受け入れている」、「現在は受け入れていないが、受入意向あり」と回答のあった日中活動系サービス事業所のみ対象

	実施している	現在は実施していないが、希望者がいれば実施予定	実施していない	合計
医療型短期入所 （ショートステイ）	10 (83%)	2 (17%)	0 (0%)	12
福祉型短期入所 （ショートステイ）	6 (50%)	6 (50%)	0 (0%)	12
児童発達支援 【未就学児】	8 (11%)	8 (11%)	57 (78%)	73
放課後等デイサービス 【就学児】	9 (16%)	1 (2%)	45 (82%)	55
生活介護（デイサービス） 【18歳以上】	22 (63%)	6 (17%)	7 (20%)	35
合計	55 (29%)	23 (12%)	109 (58%)	187

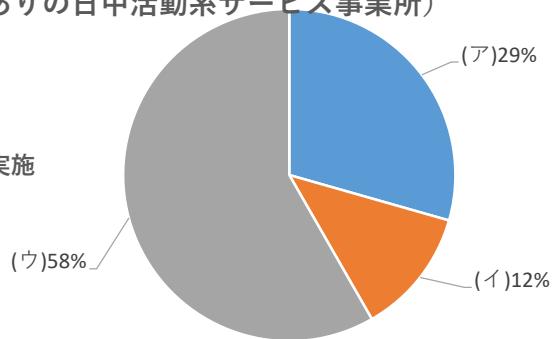
### 入浴支援の実施状況

（受入中及び受入意向ありの日中活動系サービス事業所）

■ (ア)実施している

■ (イ)現在は実施していないが、希望者がいれば実施予定

■ (ウ)実施していない



#### ・事業所数（地域別：実施中及び実施予定）

	鹿児島	南薩	北薩	姶良・伊佐	大隅	熊毛	大島	合計
医療型短期入所 （ショートステイ）	9	0	1	2	0	0	0	12
福祉型短期入所 （ショートステイ）	7	3	0	2	0	0	0	12
児童発達支援 【未就学児】	8	0	1	5	1	0	1	16
放課後等デイサービス 【就学児】	5	0	0	5	0	0	0	10
生活介護（デイサービス） 【18歳以上】	5	3	2	7	7	2	2	28
合計	34	6	4	21	8	2	3	78

(4) サービス提供時間の状況（生活介護）

通常のサービス提供時間は「9時～17時」が10事業所と最も多く、次いで、「9時～16時（7事業所）」、「9時～15時（5事業所）」が多かった。  
また、サービス提供時間の延長は、7事業所が可能であった。

※「現在受け入れている」、「現在は受け入れていないが、受入意向あり」と回答のあった生活介護事業所のみ対象

通常のサービス提供時間	延長なし	延長1時間	延長2時間	延長3時間以上	合計	所属圏域
6時～18時	1				1	姶良・伊佐(1)
8時～18時	1				1	南薩(1)
9時～15時	3	1	1		5	大隅(4), 熊毛(1)
9時～15時30分	1				1	大島(1)
9時～16時	5	1	1		7	鹿児島、南薩、姶良・伊佐、熊毛、大島各(1), 北薩(2)
9時～16時30分	1				1	姶良・伊佐(1)
9時～16時40分	1				1	大隅(1)
9時～17時	7	2	1		10	鹿児島(4), 姶良・伊佐(3), 大隅(2), 南薩(1)
9時～18時	1				1	姶良・伊佐(1)
9時30分～15時30分	2				2	鹿児島(1), 北薩(1)
9時30分～15時45分	1				1	北薩(1)
9時30分～18時	1				1	大隅(1)
10時～16時	2				2	鹿児島(1), 姶良・伊佐(1)
10時～17時	1				1	鹿児島(1)
合計	28	4	3	0	35	

### 3 受入課題

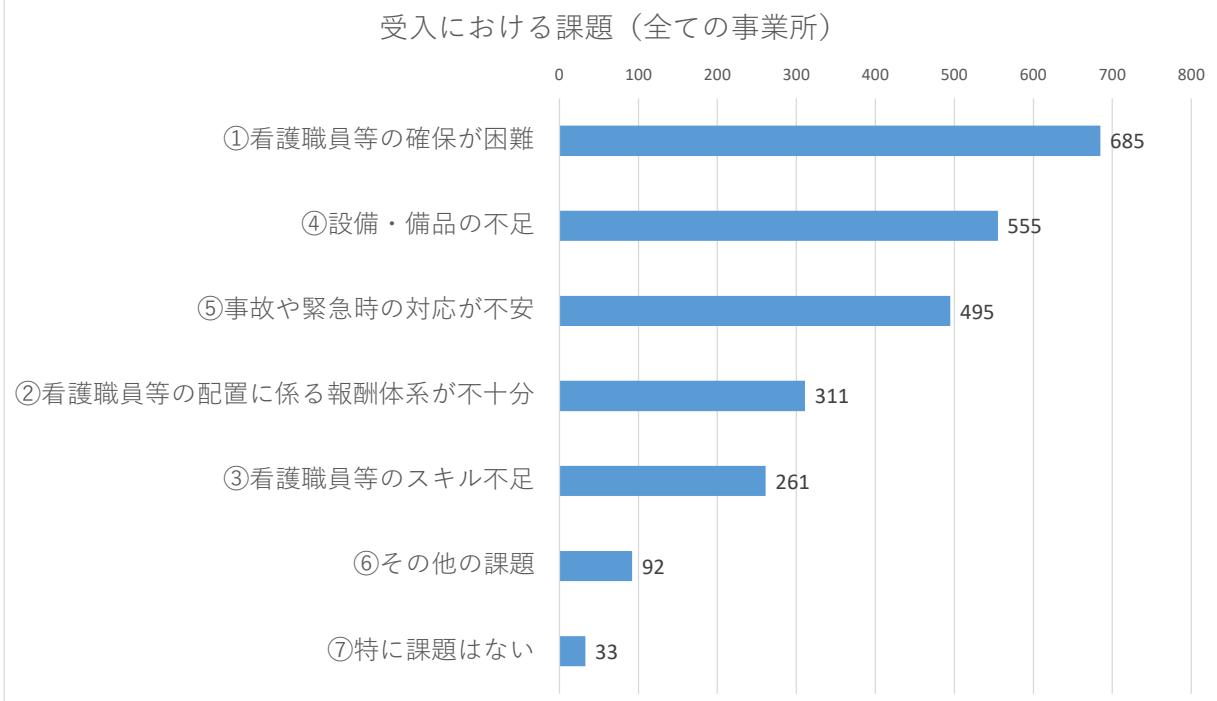
#### (1) 受入における課題

「看護職員等の確保が困難（74%）」が最も多く、次いで、「設備・備品の不足（60%）」、「事故や緊急時の対応が不安（53%）」が多かった。

	回答	割合
①看護職員等の確保が困難	685	74%
②看護職員等の配置に係る報酬体系が不十分	311	34%
③看護職員等のスキル不足	261	28%
④設備・備品の不足	555	60%
⑤事故や緊急時の対応が不安	495	53%
⑥その他の課題	92	10%
⑦特に課題はない	33	4%

割合は、回答のあった928事業所に占める割合

受入における課題（全ての事業所）

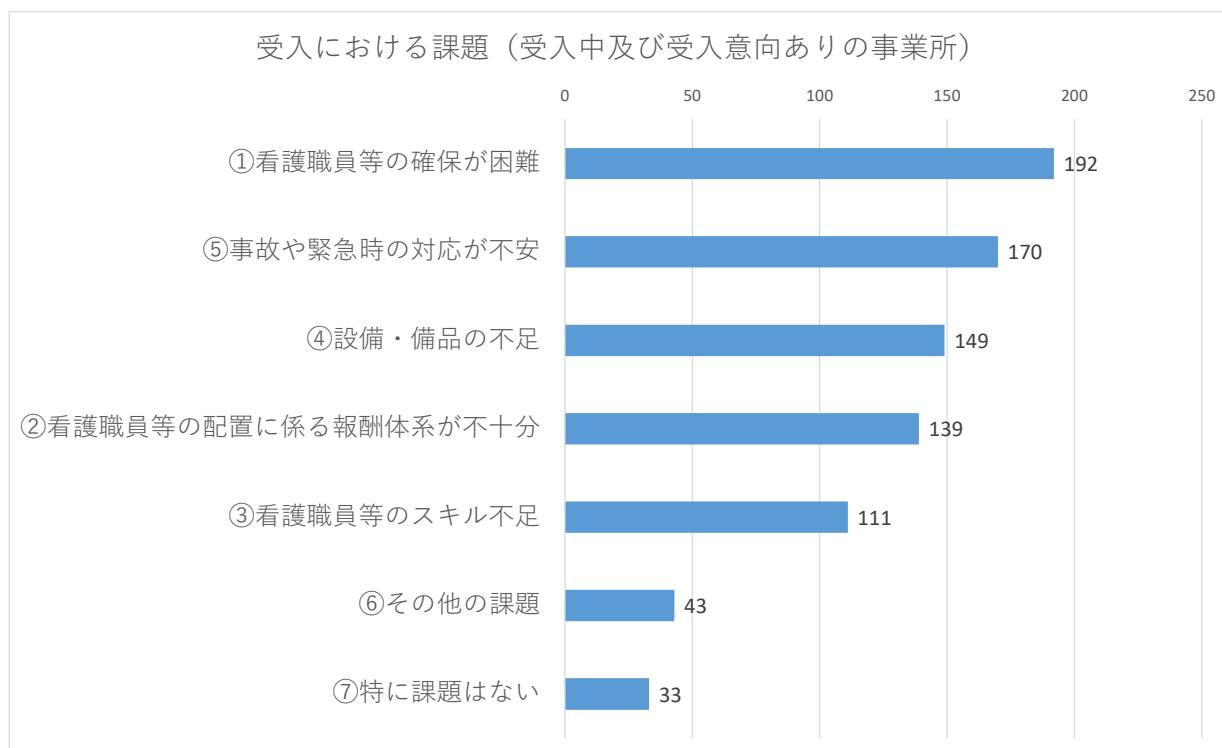


	①看護職員等の確保が困難	②看護職員等の配置に係る報酬体系が不十分	③看護職員等のスキル不足	④設備・備品の不足	⑤事故や緊急時の対応が不安	⑥その他の課題	⑦特に課題はない
①訪問看護ステーション	120 (67%)	37 (21%)	113 (63%)	62 (35%)	80 (45%)	15 (8%)	13 (7%)
②居宅介護（ホームヘルプ：重度訪問介護を含む）	49 (60%)	23 (28%)	11 (13%)	24 (29%)	30 (37%)	17 (21%)	8 (10%)
③医療型短期入所（ショートステイ）	6 (50%)	6 (50%)	2 (17%)	2 (17%)	4 (33%)	3 (25%)	0 (0%)
④福祉型短期入所（ショートステイ）	32 (80%)	14 (35%)	12 (30%)	29 (73%)	27 (68%)	3 (8%)	0 (0%)
⑤児童発達支援【未就学児】	164 (76%)	71 (33%)	40 (19%)	142 (66%)	115 (53%)	21 (10%)	7 (3%)
⑥放課後等デイサービス【就学児】	181 (78%)	85 (37%)	39 (17%)	167 (72%)	122 (53%)	19 (8%)	4 (2%)
⑦生活介護（デイサービス）【18歳以上】	62 (76%)	35 (43%)	21 (26%)	54 (66%)	54 (66%)	9 (11%)	0 (0%)
⑧共同生活援助（グループホーム）【18歳以上】	71 (82%)	40 (46%)	23 (26%)	75 (86%)	63 (72%)	5 (6%)	1 (1%)

(2) 受入における課題 ※「現在受け入れている」, 「受け入れ意向あり」と回答のあった事業所  
 「看護職員等の確保が困難 (56%)」が最も多く、次いで、「事故や緊急時の対応が不安 (50%)」,  
 「設備・備品の不足 (43%)」が多かった。

	回答	割合
①看護職員等の確保が困難	192	56%
②看護職員等の配置に係る報酬体系が不十分	139	41%
③看護職員等のスキル不足	111	32%
④設備・備品の不足	149	43%
⑤事故や緊急時の対応が不安	170	50%
⑥その他の課題	43	13%
⑦特に課題はない	33	10%

↑ 割合は、回答のあった343事業所に占める割合



	①看護職員等の確保が困難	②看護職員等の配置に係る報酬体系が不十分	③看護職員等のスキル不足	④設備・備品の不足	⑤事故や緊急時の対応が不安	⑥その他の課題	⑦特に課題はない
①訪問看護ステーション	59 (56%)	30 (29%)	66 (63%)	36 (34%)	52 (50%)	7 (7%)	13 (12%)
②居宅介護（ホームヘルプ：重度訪問介護を含む）	16 (43%)	5 (14%)	3 (8%)	2 (5%)	11 (30%)	11 (30%)	8 (22%)
③医療型短期入所（ショートステイ）	6 (50%)	6 (50%)	2 (17%)	2 (17%)	4 (33%)	3 (25%)	0 (0%)
④福祉型短期入所（ショートステイ）	9 (75%)	7 (58%)	7 (58%)	9 (75%)	10 (83%)	0 (0%)	0 (0%)
⑤児童発達支援【未就学児】	36 (49%)	30 (41%)	12 (16%)	38 (52%)	32 (44%)	9 (12%)	7 (10%)
⑥放課後等デイサービス【就学児】	30 (55%)	29 (53%)	11 (20%)	31 (56%)	26 (47%)	8 (15%)	4 (7%)
⑦生活介護（デイサービス）【18歳以上】	28 (80%)	22 (63%)	6 (17%)	20 (57%)	24 (69%)	4 (11%)	0 (0%)
⑧共同生活援助（グループホーム）【18歳以上】	8 (57%)	10 (71%)	4 (29%)	11 (79%)	11 (79%)	1 (7%)	1 (7%)

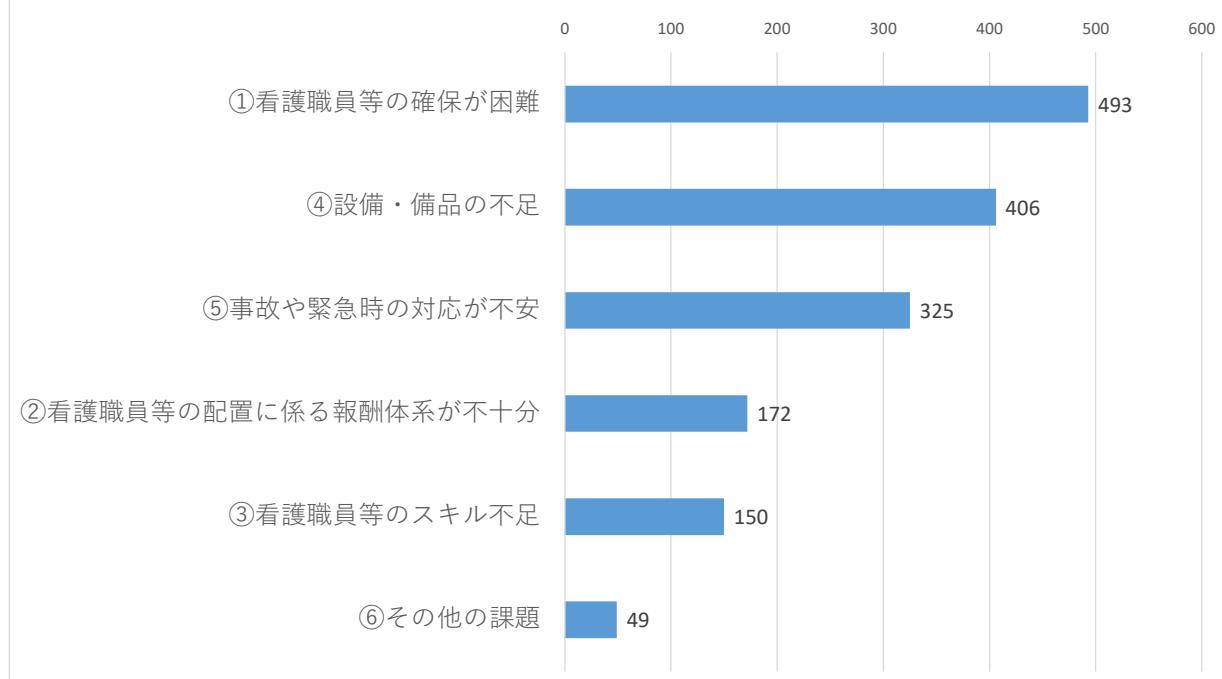
(3) 受入における課題 ※「受入困難」と回答のあった事業所

「看護職員等の確保が困難（84%）」が最も多く、次いで、「設備・備品の不足（69%）」、  
「事故や緊急時の対応が不安（56%）」が多かった

	回答	割合
①看護職員等の確保が困難	493	84%
②看護職員等の配置に係る報酬体系が不十分	172	29%
③看護職員等のスキル不足	150	26%
④設備・備品の不足	406	69%
⑤事故や緊急時の対応が不安	325	56%
⑥その他の課題	49	8%

割合は、回答のあった585事業所に占める割合

受入における課題（受入困難の事業所）



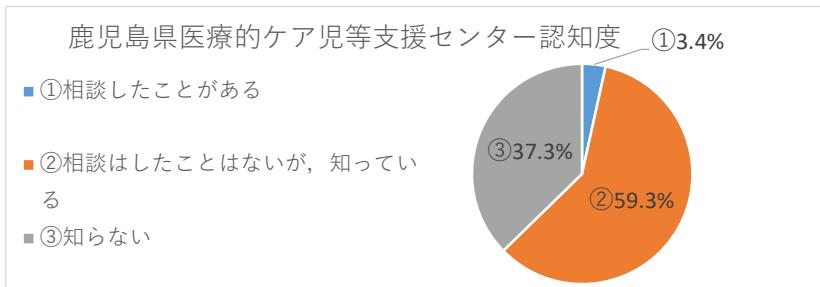
	①看護職員等の確保が困難	②看護職員等の配置に係る報酬体系が不十分	③看護職員等のスキル不足	④設備・備品の不足	⑤事故や緊急時の対応が不安	⑥その他の課題
①訪問看護ステーション	61 (84%)	7 (10%)	47 (64%)	26 (36%)	28 (38%)	7 (10%)
②居宅介護（ホームヘルプ：重度訪問介護を含む）	33 (73%)	18 (40%)	8 (18%)	22 (49%)	19 (42%)	4 (9%)
③医療型短期入所（ショートステイ）	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)	0 (0%)
④福祉型短期入所（ショートステイ）	23 (82%)	7 (25%)	5 (18%)	20 (71%)	17 (61%)	2 (7%)
⑤児童発達支援【未就学児】	128 (90%)	41 (29%)	28 (20%)	104 (73%)	83 (58%)	11 (8%)
⑥放課後等デイサービス【就学児】	151 (85%)	56 (32%)	28 (16%)	136 (77%)	96 (54%)	9 (5%)
⑦生活介護（デイサービス）【18歳以上】	34 (72%)	13 (28%)	15 (32%)	34 (72%)	30 (64%)	2 (4%)
⑧共同生活援助（グループホーム）【18歳以上】	63 (86%)	30 (41%)	19 (26%)	64 (88%)	52 (71%)	2 (3%)

## 4 鹿児島県医療的ケア児等支援センター

### (1) 鹿児島県医療的ケア児等支援センター認知度

県医療的ケア児等支援センターに「相談したことがある」、「相談はしたことはないが、知っている」が計62%，「知らない」が約37%であった。

	回答	割合
①相談したことがある	32	3%
②相談はしたことはないが、知っている	550	59%
③知らない	346	37%
合計	928	100%



## 5 その他のご意見

掲載に関しては原則として原文のままでし、記述の一部を抜粋している場合もある。

- ・ 現在、医療的ケアが必要な利用者が1人であり、週に1～2日の日中の利用のため、看護職員1人で対応できていますが、利用日数や利用人数が増えると、対応職員の確保及び報酬体系が難しいため、これ以上の受け入れをする場合は、対応職員の人員確保や制度の改正等の改善が必要であると感じています。（生活介護）
- ・ 医療的ケア児も多くのお友達と接して関わりをもつことは双方にとって必要なことだと思います。また、ご家族の負担や不安を少しでも減らせることが必要です。人手不足や人件費、設備の問題があり受け入れ不可で申し訳ないです。（放課後等デイサービス）
- ・ 当施設は、バリアフリーではなく、医ケア児を主な対象にはしていないため、受け入れには制限がありますが、看護師が勤務しているため、発作時の座薬の投与や酸素療法等、可能な範囲での受け入れになります。限定的ではありますが、医療的ケアの必要なお子さんの選択肢の一つとして存在できればと思っています。（児童発達支援）
- ・ 看護職員体制が一人になったときの不安がある。職員の体制不足の時の不安がある。医療ケアに関する知識不足があり勉強会の実施や緊急時の対応を適切に行う仕組みがあつてほしい。医療ケアを必要とする方と一人で歩ける方と同じ事業所で支援するリスクを感じる。（生活介護）
- ・ 医療的ケア児への支援の必要性は感じますが、小児経験のあるスタッフがいないため、受け入れることができません。経験のあるスタッフがいれば支援ができるかと思いますが、お役に立てず申し訳ございません。（訪問看護ステーション）
- ・ 施設の環境整備や人員確保が課題であると感じている。行動が激しい方との活動場所を分けたり、看護師のスキルなども心配な要因である。また、緊急時に相談できる医療機関が近くにないことも課題である。（放課後等デイサービス）
- ・ 医療的ケア児や重症心身障害児は、なかなか体調が安定せず、病院受診や安静のため事業所をお休みすることが多い。しかしながら、事業所は体制を整えておかなければならず、給付費は入らないのに人件費等は常にかかっている。今年の夏、事業所でコロナが流行し、感染者はもちろんだが、収束するまではしばらくお休みしますと利用控えがあり、1月分ほどの給付費が請求できず運営が厳しい状況になった。（放課後等デイサービス）
- ・ 医療的ケアのニーズは認識しているが、担当スタッフの確保・人材育成が大きな課題となっている。インクルーシブな事業所環境を目指していきたい。人材確保が常に大きな課題である。（児童発達支援）
- ・ 療育現場での看護職の確保が難しく、医療的ケアがあると敬遠されがち。看護師の報酬体系がもう少し改善されて、就労するにあたってのきっかけがあると、看護職が増え、多くの医療ケア児を受け入れられると考えます。又、支援面に際しては、看護職のスキルアップを図るための研修会が、もっと多く開催されると安心してご利用いただけるように考えます。（放課後等デイサービス）
- ・ 医療の進歩によって、医療的ケア児は増えていると聞いています。しかし、なかなか受け入れられるスキルや体制が整った施設が少ない現状があり、家族の方の負担を考えるととても心苦しくなります。医療的ケア児等の支援センターが開所したため、拠点があることで大きな安心につながっていると思います。現在の事業所の状態では受け入れが難しいのですが、医療的ケア児についての学習や理解を子どもに携わる職員として学びたい気持ちでいます。（放課後等デイサービス）